

災害に強いまちづくり

移動のしやすいまちづくり

第2回



ボランティアコーディネーターの阪本さんから、災害時の避難についてお話をいただきました。



災害避難に対する各自の思いを話し合いました

第1回 2011年12月25日(日) 13:30~15:30

「話し合い：災害時の避難について」

- ・西淀川区は水害に弱い地形です。淀川、神崎川の氾濫、地震による津波が発生した場合、大きな災害が起こることが予想されます。
- ・災害時には、高齢者や障害者、幼児と行った移動に困難がある人々が逃げられる危険性があります。
- ・今回は、前回に引き続き、災害に強いまちにしていくために、住民一人ひとりがどのような対策ができるのか、みんなで考えてみましょう。

① このプロジェクトの経緯と目的

現在、3月11日に発生した東日本大震災を受けて、災害発生時の避難に対する危機感が強まっています。災害時には、高齢者や障害者、幼児や乳児といった移動に困難がある人々が逃げ遅れ、たくさんの尊い命が失われました。西淀川においては、淀川、神崎川が氾濫したり、津波が発生した場合、大きな災害が起こることが予想されます。

災害に強いまちにしていくためには、堤防の整備などのハード面も必要ですが、住民一人ひとりが万が一の災害に備えて対策を考えることが必要です。本年度の西淀川交通まちづくりプロジェクトでは、西淀川で災害が起きた場合を想定した避難について、みんなで考えていきたいと思っています。

また、同時並行で、日常に誰もが移動しやすい環境づくりを目指して、交通バリアフリーに関する情報収集も行っていきたいと思っています。災害に強いまちづくりは、平常時の移動のしやすさにつながっていると考えられます。集めた情報は、バリアフリーマップとして、冊子やwebにまとめていきます。

② プロジェクトの内容

時期	内容
1回目話し合い 11月26日(土) 14:00~16:00	●「話し合い：災害時の避難について」 ・まず、「西淀川区で予測される災害被害」や「災害に強いまちづくり」に関するお話を聞きます。 ・その後、高齢者、障害者、乳幼児といった移動が困難な人々を対象とした災害時の避難方法について話し合います。
2回目話し合い 12月25日(日) 13:30~15:30	●「話し合い：どのように情報をまとめて知らせたらよいのか」 ・ヒアリング調査の内容をふまえて、どのように情報をまとめて、どのように情報を提供していくべきかを話し合います。
ヒアリング調査 1月	●「調査：避難の際に、どのような情報が必要なのか」 ・1回目の話し合いの内容をふまえて、高齢者、障害者、乳幼児の保護者の方々が、災害時にどのような情報を必要としているのかを聞きます。
意見交換会 3月	●区役所や学識経験者と意見交換 ・話し合った内容やヒアリング調査の内容をもとに、行政や学識経験者と意見交換をします。

③ プロジェクトの成果（予定）

●災害に強いまちづくりについて

- ・西淀川防災パンフ（子育て世代版）：避難の際に必要な情報、避難経路、避難場所など
部数：3,000~5,000部（参考：西淀川区の出生数 約1,000人/年）
- ・報告書
本年度の取り組み内容について

●バリアフリーについて

- ・西淀川バリアフリーマップ：主要施設、買い物施設などのバリアフリー情報

④ 本日の内容

13:30 (5分)	あいさつ
13:35 (30分)	話し合い (前回の続き) ※災害避難に関する各自の思いについて ※高齢者、障害者、乳幼児といった移動が困難な人々を対象とした 災害時の避難方法について ※バリアフリーマップについて
14:05 (25分)	災害マップの事例紹介
14:30 (5分)	休憩
14:35 (50分)	話し合い
15:55 (5分)	アンケートに記入

② 障がい児の防災を考える一冊

企画制作：NPO 法人 ぴーす

2005年度防災教育チャレンジプラン

目次

はじめに 1

🌀 どんな障害児にアンケートをしたか? 2

🌀 災害が起きた!その瞬間・知的/発達障害児は? 4

🌀 学校で被災した! 5

🌀 家族以外と外出中、町で被災したら? 7

🌀 障害児の防災・まとめると 10

🌀 障害児家族として、こんなことをお願い 11

🌀 まとめ～障害児の防災とは 12



大塚市にある
絵をのびる
養護学校小塚部
6年 女児

障がい児の 防災を考える 一冊

養護学校／塾学校保護者へのアンケート調査より

『障害児のための防災』を考えるプロジェクト
主催団体——NPO法人 ぴーす
後援——堺市、堺市社会福祉協議会、
堺市身体障害者(児)団体連絡協議会
助成——2005年度 防災教育チャレンジプラン助成事業

2005年度防災教育チャレンジプラン



障がい児・者の家庭支援をする
特定非営利活動法人
ぴーす

ぴーすは
障がい児・者本人とその家族の
「たのしい暮らし」を支援する法人です。
スタッフのほとんどは「障がい児の母親」。
当事者としての感性を大切に、
各家庭が「障がいと上手につきあい、
自分達らしく暮らす」ことを
応援しています。

2005年度防災教育チャレンジプラン

2005年度防災教育チャレンジプラン

🌀 障害児の防災・まとめると

●家族/自分運は何をしておくべきか

- (1) 被災した我が家はなにに困るか? これは各ご家族によって違います。まずは家族で「防災についての話し合い」をしましょう。障害のある子どもさんにも「わからない」と決めつけずいっしょに話し合い、子どもと家族のニーズを明確にしておきましょう。
- (2) 次に家族のニーズを踏まえ、基本的な防災をしましょう。これは一般家族と同じ内容なので、積極的に勉強し準備をしましょう。
- (3) こだわりの遊び道具、お気に入りの食器や寝具、サイズが特殊な服やオムツなど「我が子特別のもの」も、防災用品の中に入れておきましょう。
- (4) 変化に弱い子は、時々避難訓練として、いつもと違う場所での食事や就寝の練習をするとよいでしょう。車を避難場所にするのは「エコノミークラス症候群」を招く恐れがあるので別の方法を考えましょう。我が家以外の場所での宿泊練習やテントや寝袋で寝る練習などはよいと思われます。
- (5) 自分から正確にコミュニケーションできない子は、支援物を携帯しましょう。「手話で話す」ことを相手に示すものなど、筆記道具、自分から伝えられない子は、防災カードなど本人情報がわかるものを身につけましょう。
- (6) 学校防災対策などはすぐ見られる場所に掲示などしましょう。ヘルパーと連絡や対応の方法を話し合しましょう。
- (7) 養護学校／塾学校の子どもは地域でのつながりが薄いです。難しい事ですが、いざという時に助けてくれる人がたくさん現れるよう、普段から積極的に町に出て、理解者を増やしましょう。

10

2005年度防災教育チャレンジプラン

🌀 障害児家族として、こんなことをお願い

●在籍している養護学校／塾学校へ

できるなら防災体制は毎年保護者が確認できるよう工夫があればいいかと思えます。また保護者への連絡方法も電話以外の方法があればいいかと思えます。

※災害用伝言板などの利用を検討してください。

避難生活は慣れぬ暮らしになるので、慣れた学校が早く使えると子ども達も落ち着けると思えます。そこで授業がなくてもよいので、できるだけ早く学校を利用できるように検討いただけたらうれしいです。

※障害児が気兼ねせず集まれる場づくりを検討ください。

●地域の小学校へ

障害のある子はアナウンスや話しかけなどの聴覚情報が苦手です。できるなら案内などは視覚的掲示物(文字/イラスト/シンボル)などしてもらえると助かります。

また発達障害の子に多いパニックなどは、狭くてもよいので一人になれるスペースがあれば緩和できます。それも合わせて検討していただけたらうれしいです。

●地域にお願いしたいこと

養護学校／塾学校の子は地域とのつながりが薄いです。私達も積極的に町に出るよう努力しますので、こんな子いるよ!を知ってください。

●堺市にお願いしたいこと

児童の災害弱者は、知的障害／発達障害が多いです。ぜひ知的障害／発達障害対象の、防災対策を考えてください。

11

2005年度防災教育チャレンジプラン

5

